令和６年度　学校運営協議会

熟議「睦沢町の教育の強み
～どのように子どもたちに生かすか～」

睦沢町学校運営協議会

令和６年度　学校運営協議会　熟議の総括

1.開催日時　　令和６年１０月２４日（木）１８時～

2.会　　場　　睦沢町立中央公民館

3.テーマ　　「睦沢町の教育の強み
～どのように子どもたちに生かすか～」

4.実施の方法　委員を２班に分けて話し合いを実施し、その内容を全体会にて発表し共有を図った。

5.各班の内容

１班　委員からの意見

○地域とのつながり　　体験授業や自然・稲作体験。
人と人との距離が近い。

○生徒が少ない　　１人１人に目が届く。先生とのコミュニケーション。

○施設　　商業・産業。　運動公園や道の駅、歴史民俗資料館もある。

○コミュニティスクール　　学校・ボランティア・地域の人とのつながり。
体験学習がある。児童・生徒の数が丁度良い。
関わっている人が多く、交流もある。

○その他　関心のある人とそうでない人の差。地域行事の減少。
子どもの数の減少。新しい体験学習

２班　委員からの意見

○園小中一貫教育　　接続、１５年間を見据えた目標、職員の交流、
顔がわかる少人数、こどもの見守りで大人との距離の近さや
あいさつができる。

○歴史民俗資料館　　お年寄りとの関わり、精神的な豊かさ。

○コミュニティスクール　　地域との交流がある。稲作体験や海外交流、
職場体験などでの他の団体との交流、槇の木との関係。社会教育
との連携。自分で考える自立心。勉強以外の価値観。

○ICT の活用　　デジタルドリルの活用。

○自然環境　　森林の豊かさ、サケの放流。

○その他　子どもに余裕のある時間がある。心の余裕、純粋な面。
勉強以外の多様な価値観を認められる環境。

6.各班の班長より発表

1班　渡邉委員

・人数が少ないため先生の目が届きやすい

・先生とのコミュニケーションも良好にとれる

・悩みや心の教育などにも対応しやすい

・学校ボランティアの方たちと稲作体験を行うなど人と人との距離が近い

・昔からのつながりが多い

・町の施設(プール　道の駅　みどりの広場)など活用した授業が行える

・自然豊か

・地域の方との交流はあるが同じ方々になりがち

・地域の方々と交流する場が多いため子どもたちのコミュニケーション能力向上につながる

2班　久我委員

・園小中の一貫教育による滑らかな接続、15年後を見据えた教育ができている。

・少人数の為子どもの顔がわかる

・集団生活やあいさつが育つ

・大人と子どもの距離が近い

・子どもの見守りができている

・国際交流としてシンガポールとの交流がある

・鮭の放流真っ白い広場など自然を生かしたイベントがある

・物事をはっきり言える自立心の高い子どもが多い

・デジタルドリルを活用することでICTに強くなる

・地域との交流が盛ん(稲作体験　職場体験など)

・地域の高齢者や歴史民俗資料館のおかげで心の豊かさが育まれている。

・時間に余裕があり勉強以外の多様の価値観の形成

7.まとめとして

「睦沢町の教育の強み」を地域や学校・行政のそれぞれの目線で意見交換し共有することができた。この特徴を広く住民に周知し、活かすとともに、これまでの熟議の内容も含めて、地域の中にある学校の子どもたちを地域で育て、地域が持つ伝統や歴史、そして人材を活用し、様々な世代が協働できる地域の教育力を見直すこととする。